

## 懇談会での主な意見交換

### まち歩きマップづくりの背景

前年度の懇談会でまちづくり専門家から提言。

**「歩いて楽しめる、地域の特色がよく見える、トイレや休憩場所がある、白河を紹介できる人を育成する仕組みがあることが重要」**

中心市街地活性化基本計画を策定するための協議会を立ち上げた。地元発のマップによって関心が高まることを期待する。名所への案内板設置、休憩できる店の紹介、全国まちの駅連絡協議会への登録など、受け入れ体制の整備を始めている。

まちなかの循環バスの運行が始まる。

### マップづくりの取り組み方

**マップづくりと連動して、道にサインがあること、現場が快適なこと、地元住民の受け入れ体制を整えることが大事。**

「ラーメン店」など、評価を加味した案内は難しいので場所だけを示す。

「地図を見て行ったら失望した」という体験を避けるため、ある程度の評価・取捨選択が必要。

市民でも知らないことが多いので、**市民向けに紹介する視点も必要。**

今回は基礎となるマップをつくり、今後、関連団体が利用目的にあわせて修正できるようにする。

まちなかの多くの場所に置けるよう、手軽に増刷できる1枚ものがよい。

### マップの表現方法

三春の地図は情報が多く「家に帰って読む地図」である。これに対し「歩きながら使える地図」は情報を絞り込み、**簡略で、大きな文字で描くべき。** **採用**

鳥瞰的に表現して見やすく、わかりやすいものがよい。

見て読んで楽しく、ユーモアや暖かみが感じられるもの。

親しみやすさを表現するには、**文字よりイラスト、活字より手書きが効果的で「見ればわかる地図」。**

白河に来たくなるよう、白河以外でも配布。

町絵図風に仕上げ、飾っておきたいもの。



### マップのエリア

白河にはたくさんのマップが既にあるが、新しく作るならば「対象はだれか？範囲はどこまで？何を記載する？」について絞り込む。

**歩いて回れるエリアに限定する。** **採用**

遠方からの来訪者に対して**城下町や宿場の中心である小峰城ははっきり示すべき。** **採用**

マップの表裏を効果的に利用する

表裏で縮尺を変える「表：市全域、南湖公園・白河の関まで、裏：まちなか 0.5km ~ 1.0km の範囲」

表裏でテーマを変える「表：食とみやげ、裏：歴史、祭り、こみち」

歩ける範囲に限定する「**表裏で城下町を2分割して拡大表示（広域図を小さく入れる）**」 **採用**

そのほかにも多くのご意見をいただきました。

### まとめ

#### マップ作成の方針・方向性

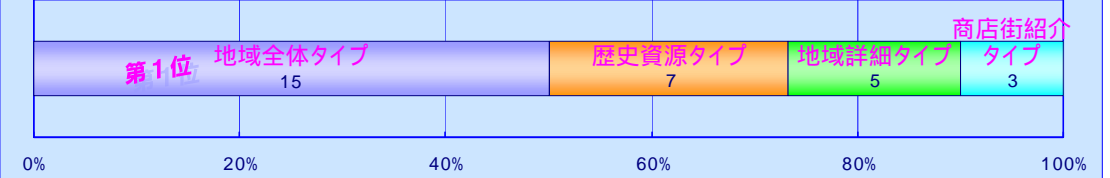
広域的な位置を示した上で、小峰城から谷津田川までの歩いて回れる範囲を詳しく紹介し、歩きながら使える地図イラストや写真を中心に楽しげな雰囲気を感じ取り、歴史・食・土産・休憩など、楽しめる場所を広く紹介。盛り込む情報は懇談会メンバーが共同で発掘・紹介・交渉

## アンケートの結果

懇談会で行っていただいたアンケートの集計結果です。 (総数 31 票)

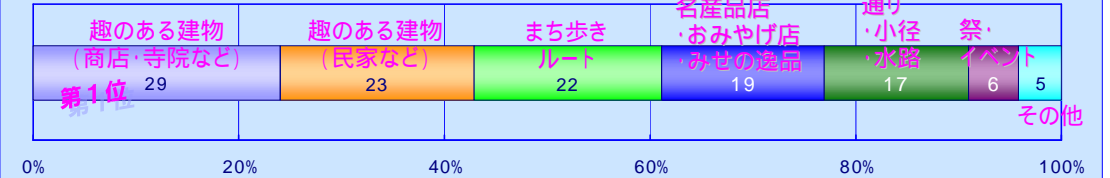
### 問2. マップのイメージ 1位票

地域全体タイプが半数を占めました。



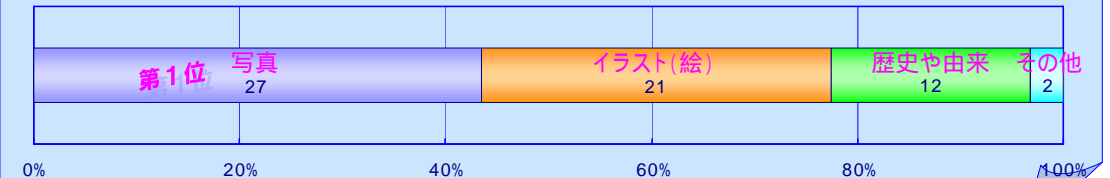
### 問3. マップで紹介したい“場所や資源” 複数回答

趣のある建物を中心にいろいろな意見がありました。



### 問4. 紹介したいものの“表現方法” 複数回答

一目で見て分かる“写真”と“イラスト(絵)”で8割近く占めました。



問5と問6の回答は、懇談会で主な意見交換に集約しています。



A3版を半折り



懇談会の様子

### マップに載せたい“場所や資源”

- 各寺院（墓石や歴史） ハリストス正教会
- 小峰城周辺（三重櫓、高札場跡、大手門跡、外堀土塁跡、マス型街路など）
- 水辺の景観（谷津田川・南湖公園）、植物の景観（乙姫桜・あじさい・つつじ）
- 通り・旧町名（新蔵通り、谷津田川せせらぎ通り、乙姫桜プロムナード）
- 趣のある建物（旧家、商家、蔵、白河駅舎）
- 和菓子屋、お土産屋、その他魅力のある店
- 食事処（ラーメン、そば、軽食、その他）
- 駐車場、トイレ（ユニバーサル仕様） 休憩処
- まち歩きコース（食べ歩きコース、歴史探索コース、散歩コースなど）